

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業
実施報告書【課題実践校用】

学校番号	43
学校名	富山県立となみ野高等学校

学校の現状と課題	本校で学ぶ生徒は、不登校の経験や家庭環境等における悩みや困難を抱えていたり、全日制高校からやむなく進路変更した生徒など、その実態は多様化している。このような生徒が、本校では少人数の学習活動や手厚い教育相談、個別支援、学校行事への参加などにより、自己存在感を高め学んでいる。しかし、志望生徒数の減少傾向があり、学校全体の活力アップを図りつつ、広く魅力を発信していくことが課題となっている。また、近年、ICT機器を用いた授業が拡大しつつあるが、生徒一人一人にICT機器(タブレット)が与えられる教育環境で、授業での有効活用が教員に求められている。		
テーマ(特色)	①生徒がICT機器を有効に活用できるように教員が支援する ②定時制単位制高校の魅力発信		
設定した「テーマ」の達成状況	①2回実施したICT研修会等によって、教員の力量も上がりタブレットを有効に活用できるようになっている。 ②本校に興味・関心のある中学3年生や保護者を対象に、本校への理解を深めてもらう機会を創出できた。		
実施内容 (具体的に記入する)	①ICT研修会 ※富山県総合教育センター科学情報部から2名を講師として招聘 Google Forms を授業で活用する基礎演習(9月7日(火)) ・授業で使える機能の紹介と実践 ・アンケートの作成と集計の演習 Google Jamboard を使ったグループ協議の演習(11月22日(月)) ・Jambordの機能の紹介と実践 ・授業におけるグループ活動の実践演習 互見授業(10月18日(月)～22日(金)) ②学校案内リーフレットの更新(500部) 昨年度策定したグランドデザインを反映し、内容を更新して作成		
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	①後期(10月～3月)から、生徒1人1台のタブレットが配付され、各授業でタブレットの使用が本格化した。本校教員対象のICT研修会を2回開催し、有効な活用方法を学んだ。生徒がタブレットを有効に活用できるよう授業で実践したり、互いの授業を見せ合ったりすることで、さらに刺激や改善のヒントをもらっている。 ②「ひとりひとりちがっていい」という本校のキャッチフレーズを前面に出し、本校の特徴(定時制・単位制、各学科の学びの特色、共学講座、年間行事、部活動等)を、写真や図を中心にビジュアルにまとめた。学校説明会の参加者数は昨年度と変わらず32組だったが、個別に説明を求めた人は昨年度より9組増えて23組となり、本校に関心を持ち説明を受けに来た人が増加した。		
対象者(学年・人数など)	①本校教員約30名 ②本校に関心を持つ中学生・保護者・その他関係者		
実施実績	4月		
	5月		
	6月	①研修案協議	②作成準備
	7月	講師・研修先依頼	検討
	8月		発注
	9月	ICT研修会①(9/7)	校正
	10月	互見授業(10/18～22)	完成
	11月	ICT研修会②(11/22)	配付
	12月		
	1月		
	2月		
	3月		